

美術科部会

研究主題 形や色，材料などの特徴を感じ取り，
イメージを豊かにもって造形活動に取り組む生徒の育成
～多様な発想や構想を引き出す魅力ある題材構想の工夫～

1 主題について

昨年度の主題をうけ，今年度も形や色から感じ取ったイメージをもつことを主題とした。様々な色や形，材料からイメージがあふれてくるような題材や授業展開を考え，生徒がイメージを実現できるよう取り組みたい。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月10日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月29日	第2回総合研究会 授業研究会（比内中学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成26年10月29日（水）
- ・会 場 比内中学校
- ・単元名 2年彫刻「教室の私たち」
- ・授業者 佐々木 由美

① 授業者から

- ・4年前からテーマを様々に変えて実施している。毎年生き生きと取り組む様子が見られる。個々の制作のみになりがちな美術の授業で，共同制作のようにしたかった。
- ・自分のイメージを形で表すとき，角度や向きで印象が変わることも子どもたちは気付けると思う。本時では，友達との関わり合いを通して作品をよりよくするポイントに気付いてほしかった。アドバイスもお互いによくできていた。話合いでよりよいものにしようという雰囲気があった。

② 協 議

- ・生徒が黒板を確かめながら，安心して進められる授業であった。
- ・生徒に実際にポーズをとらせると，どのような角度にすればよいか気付きやすかったのではないか。また，ポーズを見合いながら制作するときは，見やすいように場所を確保する。同じテーマでもポーズの違いがあるので，それに生徒が気付くような展開を考える。
- ・ワークシートが分かりやすく，教師がやってみせることもまた分かりやすくよかった。
- ・芯材の腰の関節をしっかり意識させると，よりポーズが滑らかになる。芯材も自分で作らせた方が，体の動きがより滑らかになる。
- ・グループやペアで活動するときは，タイマー等で時間を区切らせるといい。用具を使う順番を決めておくと，作業が終わって時間をもてあますこともなくなる。
- ・話合いにおいても，発表者を注目させる手立てをとりたい。話合うときには自分のイメージを伝えられる手段を工夫したい。

- ・絵とは違うおもしろさがある。芯材を少し曲げただけで、自分のイメージに近づける。題材を通しての流れが分かりやすく、形態も工夫されて、みんなでよりよいものを作っていくんだという雰囲気がある。完成したときに、クラスの様子が伝わってきて楽しめる作品。黒板があるのも、教室の雰囲気を出しているよい。
- ・マッピング法により、自分らしさを追求できるようにした。机と椅子があるという制約から、教室のワンシーンをどんどん広げていくことができる。
- ・共同制作であれば、クラスで表現する共通したテーマを決めるとよい。クラスの雰囲気がまとまる。子どもたちに話し合わせて決めてもよい。



【友達のポーズを参考に芯材を曲げる】

(2) テーマ研究

各校から様々な立体に関する授業実践が紹介された。デザインに関わるものが多かったが、材料を工夫したりプリントの構成を分かりやすくしたりすることで、生徒がイメージをもちやすいように考えられていた。

(3) 指導助言（北教育事務所 指導主事 鈴木 正樹）

- ・魅力的な題材であり、生徒も意欲的に取り組んでいた。再現的な表現が苦手な生徒でも、楽しみながら最後まで取り組める題材である。
- ・生徒たちは落ち着いていて和やかな雰囲気であった。早く作りたくてたまらないという前向きな気持ちにあふれており、話し合いではアドバイスし合える人間関係も構築されていた。
- ・教具が周到に準備されている。生徒も見通しや自分の役割をよく分かって、安心して授業を受けている。学校祭の展示を含めて、題材全体の指導計画がよく考えられている。
- ・生徒が見通しをもち活動できるように学習シートがつくられている。話し合いの例も、どのようなポイントを押さえればよいのかイメージをもてるものになっている。
- ・材料との出会わせ方を大切にしたい。今日の芯材は出ただけで意欲が高まるものなので、出すタイミングを図りたい。学習課題を引き出す場面では、生徒の発表にもう一步踏み込むことが必要。今日のような流れであれば、生徒と一緒に学習課題をつくることもできた。
- ・話し合い活動では、今日のポイントであった「関節の角度と向き」を意識させることが大事。机と椅子があれば、何か変だと感じたときに、実際にポーズをとって確認できる。
- ・最後に作品を並べたとき、生徒が自発的に鑑賞を始めていた。生徒のつぶやきを拾って、学習課題に沿って語らせることができれば、学びを実感できる振り返りにつながる。
- ・ねらい、めあて、学習活動、評価の整合を図ること。言語活動は教科の目標を達成させるための手段であり、本時のねらいと話し合いの視点がブレないようにすることが大切である。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・生徒が意欲的に取り組める題材である。制作から展示までの見通しをもたせ、作品を並べたときに共同制作のような喜びを皆で味わえる。

(2) 課題

- ・ペアやグループで活動するときの各自の役割を明確にする。
- ・イメージをもたせるための手立てや時間、場所を確保する。